

KUMIYAMA



【くみやまって こんなところ】

- 東 経 135度43分6秒
- 北 緯 34度52分53秒
- 東西の距離 3.5^{キロメートル}
- 南北の距離 4.3^{キロメートル}
- 昼夜間人口比率 177.7^{パーセント}
総務省「H27国勢調査」
- 平均気温 16.6℃ (H30)
- 年総雨量 1,477^{ミリメートル} (H30)
- 販売農家数 323戸 (H27.2.1)
京都府「農林業センサス」
- 製造品出荷額 約1,769億円 (H29.6.1)
経済産業省「工業統計調査」
- 予算規模 約73億円
令和元年度一般会計予算

【住民憲章】

わたくしたちは、美しい自然と歴史に恵まれて、たゆみなく前進しつづけている久御山町の住民です。自然と調和した生活環境の中で、文化・教育の向上をはかり、平和で豊かな暮らしを営むことが、わたくしたちみんなの願いです。

わたくしたちは、きょうの暮らしをみつめ、あすのしあわせを築くために、みんなが力をあわせ希望に満ちた、まちづくりを進めます。

わたくしたちは、この憲章が住民の総意にもとづいて定められたことを喜び、わたくしたちの名誉にかけて、これを守ります。

(昭和50年3月制定)

ごあいさつ



久御山町長 信貴 康孝

久御山町は、昭和29年10月1日に御牧村と佐山村の2村が合併して誕生しました。

先人のたゆまぬ努力により、農業と工業が調和したまちとして歩を進めてきた久御山町は、町制を施行して、今年で65年を迎えました。

町内で収穫された酒米「京の輝き」から醸造した、純米吟醸酒「夢酒くみやま」の販売を開始しました。町内の民間放送局電波塔を公募により命名した「くみやま夢タワー137」について、町内全方位から視認できるランドマークとして、11月3日からライトアップを開始するなど、町の魅力発信に取り組んでおります。

「つながる心 みなぎる活力 京都南に『きらめく』まち ～夢いっぱいコンパクトタウン くみやま～」の具現化をめざし、「令和」という夢多き新たな時代を迎えた今、70周年に向けて力強い歩みを続けていきたいと考えております。

住民の皆さんが「住んで良かった、住み続けたい」とより思っていただけのような、輝ける未来の久御山町に向けて、全力をあげてまちづくりに取り組んでまいります。
(令和元年10月1日)

Kumiyama Town



Index

- P1 表紙 久御山町のイラスト
- P2～3 ごあいさつ
- P4～5 活力みなぎるまち
- P6～7 心つながるまち
- P8～9 KUMIYAMA PHOTO SPOT
- P10～11 久御山町の歴史
- P12 イチオシ写真



Access

公共交通機関で

- 近鉄電車で
・近鉄京都線「大久保」駅下車。京都京阪バス「宇治大久保淀線」、「大久保中書島線」に乗車。
- 京阪電車で
・京阪本線「淀」駅下車。京都京阪バス「宇治大久保淀線」に乗車。
・京阪本線「中書島」駅下車。京都京阪バス「大久保中書島線」に乗車。
- JRで
・JR片町線「松井山手駅」下車。京都京阪バス「イオン松井山手線」に乗車。

車で

- 京滋バイパス「久御山淀IC」・「久御山IC」・「巨椋IC」から
- 第二京阪道路「巨椋池IC」・「久御山南IC」から
- 国道1号で大阪・京都方面から

活力 みなぎるまち



600年の伝統ある淀苗

木津川の流路であった北川顔・藤和田地区では、夏野菜を中心に野菜の苗づくりが行われています。根付き、実付きの良さが評判で、全国各地に出荷されています。

土壌が豊かなまち
～農業～

工業地帯は飛行場の跡地

久御山町には鉄道駅がないものの、国道1号がまちの中央部を南北に縦貫し、第二京阪道路、京滋バイパスなどの広域幹線道路網も発達しています。

道路交通の要衝ようしゅうとなっており、工業地域が形成され、工場や商店など、約1600の事業所が存在し、町の中央部には大型商業施設が立地しています。「ものづくりのまち」と言われる久御山町の「工業」の歴史は、戦時中に、現在の国道1号東側、航空機乗員の養成を目的として存在した「京都飛行場」の話にさかのぼります。

当時は、乗員養成所や試験飛行場として使用されていた飛行場も終戦とともに、その役目を終え、閉鎖されました。跡地は、一度農地として開墾されたものの、昭和41年（1966年）、国道1号の開通を契機に、工業用地として転用され、久御山町の産業は発展してきました。



製造業の集積地

ものづくり企業の集積地である久御山町は、金属製品製造業、はん用機械器具製造業、業務用機械器具製造業の事業所数が府内1位です。（平成28年経済センサス。京都市除く）



産業売込み隊

町内の5団体で構成しています。町内産業の販路開拓支援や計画立案、事業の実施、情報発信や関係機関との連携調整を行い、町内産業の活性化をめざしています。



クロスピアくみやま

農商工が連携して、魅力あふれるまちづくりを進める拠点。貸会議室、レンタサイクルが利用でき、休憩所やバスの待合室にもなっています。



淀大根の産地

正式名は聖護院大根。東一口一帯で栽培され、純白に輝く大根は「淀大根」として親しまれています。とろりとした、まろやかな甘みが特徴で、煮物やおでんに最適です。



夢酒くみやま

くみやまの夢を集めた日本酒は、町内の生産者が育てた酒米で作られています。フルーティーな香りと上品な味が特徴で、精米歩合60%の純米吟醸酒です。



九条ネギ

京野菜ブランドの一つで、甘みがあり柔らかく、いろいろな料理に合います。久御山町では自動包装施設やカットセンターができるほど、生産が盛んです。

企業が育つまち ～工業・商業～

ものづくりの苗処

久御山町の「土壌」で成長した企業という「苗」がすくすくと育ち、全国や世界に飛躍していけるよう「ものづくりの苗処なまどころ」というコンセプトを打ち出しています。

漁場から豊かな農業地帯へ

久御山町にはかつて巨椋池という800畝にも及ぶ巨大な池が存在していました。住民は幾度となく洪水にみまわれ、苦しみました。巨椋池は宇治川・木津川・桂川が流れ込む良好な漁場として、多くの魚が生息をしていました。

昭和8年（1933年）～16年（1941年）の国営第1号干拓事業によって、巨椋池は農地として生まれ変わり、地元住民のなりわいは漁業から農業にかわりました。そして久御山町は、一大農業地帯として発展していきました。

現在、久御山町には、優良な農地が広がっており、ほうれん草や小松菜などの軟弱野菜の栽培が盛んに行われています。収益率の高い畑作を行う府内屈指の京野菜の産地となっており、ねぎ、ほうれん草、きゅうりの作付面積は府内1位となっています（平成27年農林業センサス。京都市除く）。



町民文化祭

町内の文化サークルが中心となって、展示や舞台発表を行い、日ごろの活動の成果を発表します。模擬店も立ち並び、多くの来場者が訪れる文化活動を発信する場です。



かゆうら 粥占神事

雙栗神社で江戸時代後期から続く神事です。深夜に行われ、竹筒あずきがゆで小豆粥を吹き、中のお粥の詰まり具合で農作物の豊凶を占います。



つちわり 玉田神社の土割祭

疫病退散と農作物の豊穰を願う神事です。約250年の歴史があり、巫女が大釜で沸騰させたお湯の中に笹の葉を浸し、勢いよく熱湯を降り注ぎます。



東一口の左義長(とんど)

京都府無形民俗文化財に登録されている東一口地域の伝統行事です。わらや竹などで組み立て、点火したとんどをその年の恵方に倒して、無病息災を祈ります。

長い歴史と文化が継承

久御山町には縄文時代から多くの人が集まって生活をしていました。弥生時代には集落が存在していたことも明らかになっています。現在も、長い歴史の中で、東一口のとんどや、雙栗神社まごりの粥占神事かゆうらなどの伝統行事が各地で引き継がれています。本殿が国の重要文化財に指定されている雙栗神社や、長屋門などが国の有形文化財建造物に登録されている旧山田家住宅をはじめ、歴史的建造物も現存しています。遺跡なども残っており、貴重な文化財が時を超えて、現在に引き継がれています。

心 つながるまち



さやまこども園

保育所と幼稚園の機能を併せ持つ認定こども園。平成30年に新園舎と旧園舎の整備が完了して、オープンしました。内装には京都府内産木材を使用し、温もりのある園舎となっています。

人が育つまち

～教育・健康～



いきいきホール

「いつまでも健やかに、楽しく健康づくり、仲間づくり、生きがいづくり」がキャッチフレーズの運動施設。運動後にくつろぐことができるスペースもあります。

いきいきと暮らせるまち
久御山町では、こども園・小学校・中学校までを一つの「学園」と見立て、0歳から15歳までを見通した園小中一貫教育を推進する「久御山学園」の取組を行っています。また、平成30年度(2018年度)から、町内3校区全ての保育所・幼稚園を認定こども園に移行するとともに、佐山幼稚園の旧園舎を改築・増築した「さやまこども園」をオープンしました。ライフスタイルが変化していく中、誰もが住みなれた場所できいき暮らしを営めるよう地域づくりを行っています。



姉妹校との交流

久御山中学校は、平成7年に姉妹校となったワーウィック・ステート・ハイスクール(オーストラリア)と生徒の相互訪問などを行い、国際理解教育を図っています。



まなび塾

子どもが地域の大人と関わり、つながりや体験の場がもてるようにと、三つのまなび塾が運営されています。地域学校協働活動における文部科学大臣表彰を受賞。



のってこ優タクシー

移動に不安を抱え、路線バスの乗車が困難な人を支える交通手段として活躍しています。町内62か所の停留所間をどこでも移動できます。



心が豊かなまち ～歴史・文化～

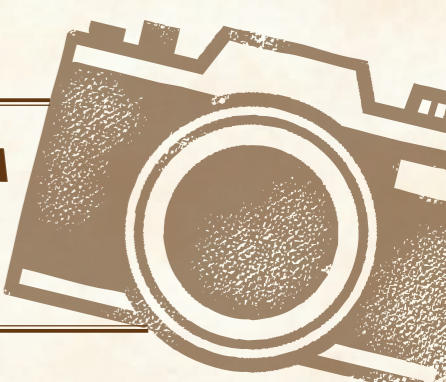
旧山田家住宅

江戸時代、山田家は御牧郷の13村をまとめた大庄屋で、巨椋池での漁業の取りまとめ役を務めていました。長屋門・長塀・主屋が国の登録有形文化財建造物に登録されています。

くみやまの「ええとこ」
見つけてみよう

KUMIYAMA

PHOTO SPOT



3 木津川の夕焼け



くみやまの南部に沿って流れる一級河川。久御山町付近で宇治川、桂川とともに、淀川へ合流して、その水は大阪湾に流れていきます。

Point

木津川では夕焼けや日の出を撮影する人が多く見られます。

2 雙栗神社



本殿が国の重要文化財に指定。8月には、五穀豊穡などを祈願する「八朔祭」が行われ、境内には露店が立ち並び、多くの人でにぎわいます。

Point

立派なクスノキは、「神社と撮影するもよし。空と撮影するもよし」です。

1 佐山浜台の「浜茶の景観」



流れ橋と木津川兩岸の「浜茶の景観」は平成28年に、日本遺産に認定されました。風情あふれる茶畑や木津川の景観が広がっています。

Point

久御山町と八幡市をつなぐ流れ橋がアクセントになります。

6 前川堤の桜並木



京都の自然200選にも選ばれている東一口・前川堤の桜並木。4月上旬には見事な花を咲かせ、多くの人が訪れます。

Point

橋の上からの景色が絶景です。橋を入れて撮るのも good !

5 御牧地区の田園風景



淀苗や軟弱野菜を中心に農業が盛んな御牧地区。野鳥も多く見ることができ、おだやかな時間と、のどかな風景が心をいやしてくれます。

Point

夕焼けと田園風景の組み合わせがおすすめです！

4 名木川の桜並木



有名な前川堤の桜並木にも負けず劣らずの桜の名所。桜のシーズンには多くの人でにぎわいます。近くを流れる古川には、野鳥も訪れます。

Point

写真は名木川に架かる橋から撮影。橋と桜と一緒に撮るのもおすすめです。

8 田んぼと電波塔



まちに広がる田園風景と電波塔の組み合わせは、くみやま独特の風景です。豊かな田んぼは御牧地区だけでなく、佐山・東角地区にも広がっています。

Point

飛んでくる野鳥や事業所などをいれてもおもしろいかも！

7 工場と電波塔



久御山町の誇る工業地域と電波塔の組み合わせは無限大。工業地域は電波塔の近くにあるので、迫力のある電波塔の姿を撮影することができます。

Point

下から上へ電波塔を見上げるように撮影すると、迫力ある写真になります。

10 ジャンクションと干拓田



久御山ジャンクションの周辺には、大きな巨椋池という池が存在していました。現在は干拓田として、美しい風景を見せてくれます。

Point

田んぼと青空はいかにも夏らしい風景。ジャンクションの青色もマッチします。

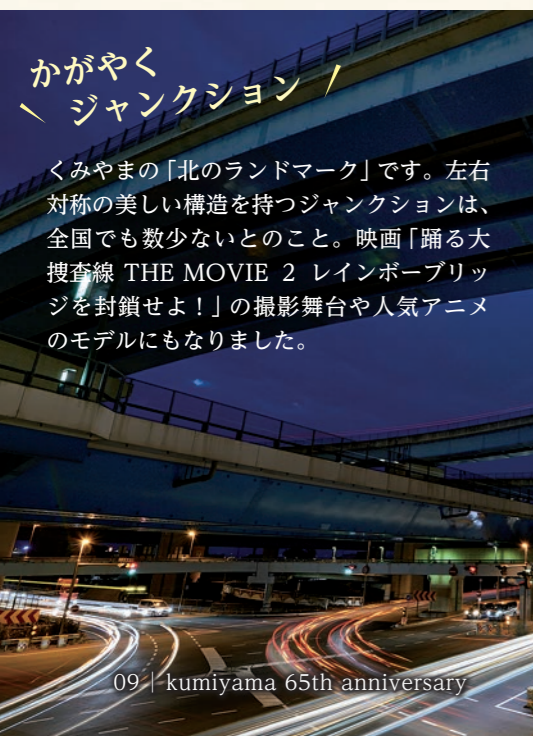
9 ジャンクションと光跡



ジャンクションでは、夜の光跡撮影を楽しむことができます。ジャンクションのラインと光の線がきれいにマッチします。

Point

光跡撮影には三脚が必須です。シャッターを開くタイミングがポイント。



どこでも電波塔

くみやまの「南のランドマーク」であるKBS京都ラジオ電波塔「くみやま夢タワー137」は、いろいろな場所からその姿を見ることができます。夢タワーは、登ることはできませんが、京都タワーよりも6.7m高く、その存在はくみやまの誇りです。

歴史

1954~2019

久世郡の御牧村と佐山村の合併による「久御山町」誕生してから、はや65年。穏やかな農村地帯から、国道1号の開通を契機に工場や商業施設が進出。一方、文化・スポーツ施設の整備など、年を経るごとに近代化し、農業と商工業、住宅地が調和した町となっています。久御山町に暮らす人々の明るい笑顔とともに、京都南部の中核地として今なお発展し続けています。

昭和29年10月 御牧村と佐山村が合併し、久御山町が誕生
(人口6588人、世帯数1235世帯 面積13.86平方キロメートル)

11月 初代町長に田村義雄氏を選出

昭和30年4月 町長選で西村正作氏初当選

10月 国勢調査で町の人口6524人、世帯数1225世帯

11月 役場庁舎を田井(元隔離病舎)に移転

昭和31年2月 社会福祉協議会結成

6月 御牧保育所開所

12月 財政再建団体に指定される

昭和32年4月 淀中学校が京都市・久御山町事務組合立となる

昭和34年8月 台風7号による集中豪雨で巨椋池干拓田冠水

昭和35年3月 財政再建団体の指定解除

5月 国民健康保険制度を実施

昭和38年4月 町長選で澤野平右衛門氏初当選

昭和53年4月 中央公園野球場オープン

9月 東角幼稚園開園

11月 「くみやま音頭」ができる

昭和55年4月 府立久御山高等学校開校

昭和56年4月 御牧幼稚園開園

5月 体育振興会結成

7月 青少年健全育成協議会発足

昭和58年7月 木津川河川敷運動広場オープン

昭和60年4月 老人福祉センター「荒見苑」オープン

昭和61年7月 町民プールオープン

昭和63年8月 町長選で田口清氏初当選

京滋バイパス一部開通

国道24号大久保バイパス北伸部開通

9月 体育協会発足

平成元年5月 京都国体秋季大会開催(サッカー・馬術)

10月 第1回町総合体育大会開催

11月 平和都市を宣言

平成4年4月 総合体育館オープン

平成5年4月 佐山保育所で0歳児保育始まる

3幼稚園で3歳児保育始まる

平成6年4月 くみやま共同作業所開所

平成8年1月 議会棟及び保健・地域福祉センターオープン

平成9年8月 京都総体(インターハイ)開催(バスケット・サッカー)

平成10年4月 シルバー人材センター設立

6月 町防災行政無線システム開局

平成11年3月 交通安全推進のまちを宣言

4月 財団法人町文化スポーツ事業団を設立

8月 ふれあい交流館「ゆうホール」・図書館オープン

令和元年

平成

昭和29年



昭和41年1月 町長選で鶴ノ口平太郎氏初当選

3月 国道1号枚方バイパス開通

昭和42年1月 町広報紙を創刊

6月 老人クラブ連合会発足

10月 第1回町民運動会開催

昭和43年4月 天ヶ瀬ダム上水道通水式

7月 ごみ収集業務開始

昭和44年6月 上水道工事完成

7月 役場庁舎(旧)完成

10月 「町章」制定

昭和45年2月 消防庁舎(旧)完成

昭和46年12月 都市計画の区域区分決まる

昭和47年3月 町の木に「さざんか」、町の花に「さつき」を制定

6月 町の人口10000人突破

商工会発足

昭和48年4月 国道24号大久保バイパス開通

8月 建設省久御山排水機場完成

都市計画の用途地域決まる

12月 消防本部・消防署発足

昭和49年6月 住民憲章・町のうたを制定

昭和50年3月 久御山中学校開校、東角小学校開校、

佐山幼稚園開園、宮ノ後保育所開所

8月 久御山団地入居開始

11月 中央公民館オープン

昭和51年3月 新消防庁舎完成

4月 佐山排水機場完成

7月 新淀大橋完成

11月 中央公民館に図書室オープン

第1回町民文化祭開催

平成12年4月 新役場庁舎完成

8月 町長選で坂本信夫氏初当選

平成15年3月 第二京阪道路部分開通

4月 健康センター「いきいきホール」オープン

東角幼稚園で幼保一体的運営がスタート

5月 商工会館完成

8月 京滋バイパス全線開通

平成16年1月 のってこバス試験運行開始

8月 農産物直売所「旬菜の里」オープン

10月 男女共同参画都市を宣言

平成17年3月 巨椋池排水機場完成

6月 国道1号京都市南道路開通

平成19年4月 のってこバス本格運行開始

平成20年4月 子育て支援センター「あいあいホール」オープン

住所表示変更(大字小字を廃止)

平成21年3月 新木津川大橋(第二京阪道路側道)開通

4月 まちの駅「クロスピアくみやま」オープン

久御山中学校改築工事完成

町長選で信貴康孝氏初当選

山田家住宅の寄贈を受け、町の文化財として保存

のってこバスに代わりのってこタクシー運行開始

町立保育所・幼稚園を認定こども園に移行

幼保連携型認定こども園「さやまこども園」オープン

中学校給食を開始

6月 広報くみやまNo.1000号発行

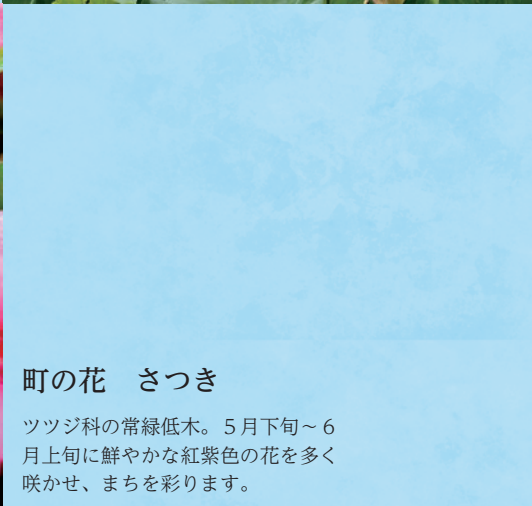
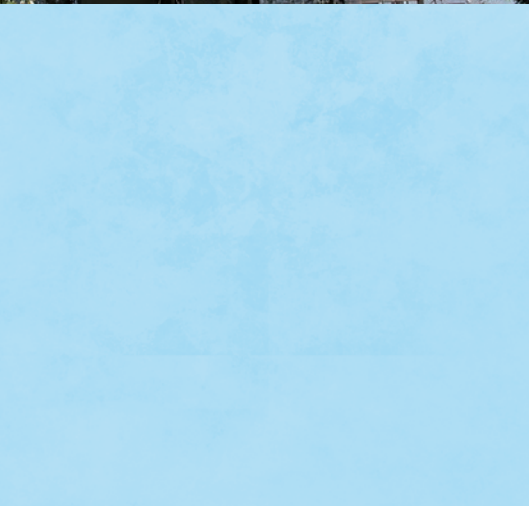
9月 新市街地「みなくるタウン」構想を発表

同報系防災行政無線の運用を開始

令和元年5月 のってこ優タクシー運行開始

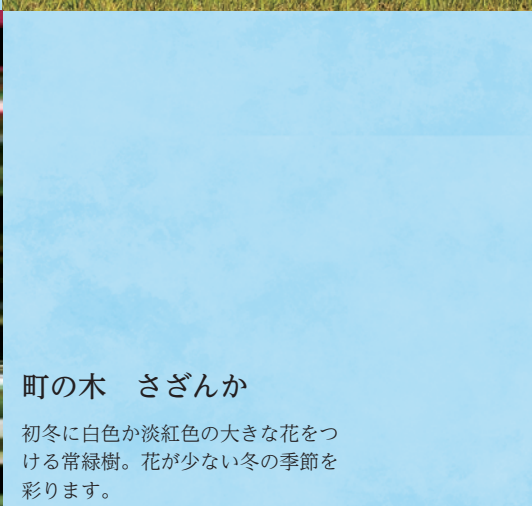
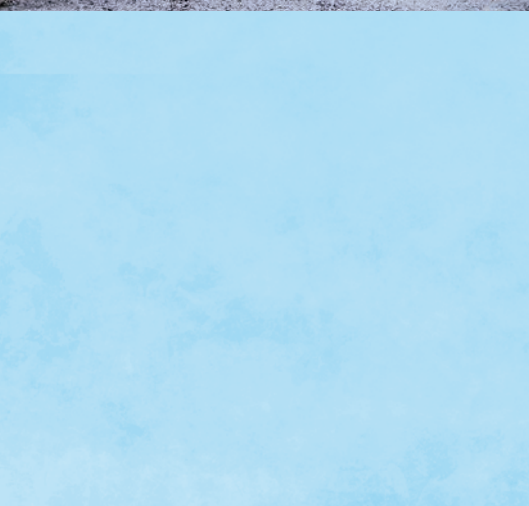
10月 「町の鳥」制定

11月 くみやま夢タワー137点灯開始



町の花 さつき

ツツジ科の常緑低木。5月下旬～6月上旬に鮮やかな紅紫色の花を多く咲かせ、まちを彩ります。



町の木 さざんか

初冬に白色か淡紅色の大きな花をつける常緑樹。花が少ない冬の季節を彩ります。

